

飼育個体増加に伴うオオツノヒツジの獣舎移動に関する報告

○半澤 紗由里
(横浜市立金沢動物園)

横浜市立金沢動物園では、個室数 8 室のオオツノヒツジ舎で雄 6 頭、雌 6 頭合計 12 頭のオオツノヒツジ (*Ovis canadensis canadensis*) を飼育している (2018 年 4 月現在)。これまで、8 時 30 分から 16 時 30 分までは岩場を模した展示場で全頭展示してきたが、繁殖制限のため、2017 年 9 月の繁殖シーズンから、雄群と雌群を分けて飼育及び展示した。また、16 時 30 分から翌朝 8 時 30 分までの夜間は、個室で濃厚飼料のみ個別で採食させたのち、個室とサブパドックを開放し、雄同士、雌同士で複数頭同居とした。飼育頭数増加に伴い、個室とサブパドックを開放して濃厚飼料を給与する試みを行ったこともあったが、闘争による受傷が目立ったため、個室での個別給与に戻した。そこで、繁殖制限と管理の効率化を考え、繁殖予定の無い雌 4 頭を空き獣舎に移動させた。

2017 年 9 月にアメリカプロングホーン (*Antilocapra americana americana*) 最後の 1 個体が死亡して以来、空き獣舎となっていたプロングホーン舎を移動先とした。移動対象は、高齢による出産困難個体、血縁個体が多数存在している個体、前年の帝王切開術の際の子宮損傷による出産困難な母親と、その際に生まれた 0 才齢の子どもの雌 4 頭とした。オオツノヒツジ舎から旧プロングホーン舎への移動は、2018 年 4 月 21 日に実施した。1 頭ずつ輸送箱に入れ、軽トラックで搬送した。

移動翌日よりプロングホーン展示場へ放飼した。岩山を模したオオツノヒツジ展示場と異なり下草が茂っており、自由に採食できる状況であった。4 頭はこれまでと異なる環境で、走り回ったり、下草を採食したりして、行動バリエーションが増えた。また、展示場の植栽保護のため、一定期間展示場を利用させない対策も講じている。